

札幌市における金融機能の集中過程

Concentration Process of Financial Function in Sapporo City

上口 大輔*
Daisuke KAMIGUCHI*

キーワード：金融、銀行、北海道、札幌、小樽

Key words : finance, bank, Hokkaido, Sapporo, Otaru

I. 札幌市の金融の現況

2004 年の『事業所・企業統計調査報告』によるところ、札幌市の金融・保険業の企業数は 344 社、常用雇用者数は 9,613 人で、北海道全体のそれぞれ約 37.8%, 83.8% を占める。札幌市の人口が北海道全体の 3 割程度であることを考えると、当市の雇用者数の多さが際立っている。また、札幌市における貸出額は、2000 年以降預金額を下回る借入超過となっているものの、北海道全体に占める割合は 6 割を超える範囲で推移しており、北海道金融の中心を担っている（図 1, 図 2）。

札幌市の金融機関の分布は図 3 のようになっている。金融機関は、札幌駅から南に伸びる駅前通り付近に集中しており、特に道外金融機関の大部

分がここに立地している。また、日本銀行札幌支店や札幌証券取引所もこの付近に所在している。当該地域には多くの企業や商業施設があることから、金融機関はこれらの施設との近接性を重視しているものと考えられる。

II. 札幌市の金融の歴史

明治時代以降、札幌市には開拓使が置かれ、早くから北海道の行政の中心となっていたが、経済の中心は松前藩の蓄積があった函館市や、内陸部の農産物や工業製品の出荷港として栄えた小樽市にあった。特に小樽市は明治後期から、北海道経済の中心的役割を担うようになる。図 4 は昭和初期における小樽市の銀行店舗の分布を示したもの

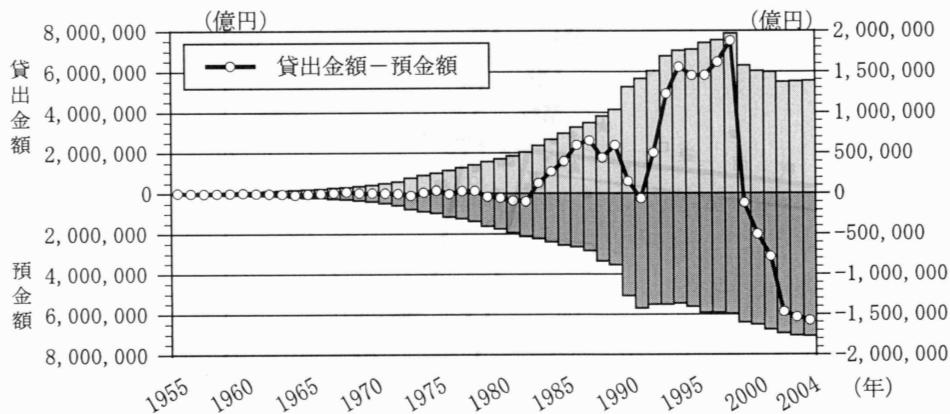


図 1 札幌市における貸出金額と預金額の推移
資料 全国銀行業協会「金融」(月刊)をもとに作成。

*北海道大学大学院文学研究科（院）

*Graduate Student, Graduate School of Letters, Hokkaido University

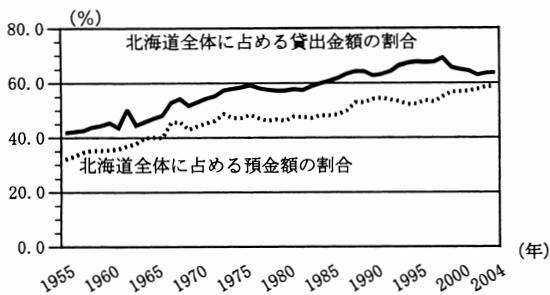


図2 北海道全体に占める札幌市の貸出金額と預金額の推移

資料 全国銀行業協会「金融」(月刊)をもとに作成。

である。銀行は商社への資金供給のために当市に支店を立地させ、銀行や商社の建物が並ぶ街並は「北のウォール街」と形容された。

小樽市から札幌市へ金融機能の中心が移るのは、統制経済下の第2次世界大戦中である。当時の札幌には、北海道開発のための長期資金を供給する目的で設立された国策銀行である、北海道拓殖銀行の本店が置かれていたが、政府は経済の統制を強めるため一県一行主義を強く推進し、道内銀行は吸収合併により、北海道拓殖銀行に一本化された。また、統制経済によって行政官庁の札幌集中が進み、関係官庁との連絡等の都合から、日本銀行が1943(昭和17)年に北海道統括店を小樽

市から札幌市に移した。物資の枯渋によって小樽市の出荷港としての意義が小さくなったりことや、小樽市金融機関の営業基盤のひとつとなっていた樺太との金融経路が戦争によって絶たれたことも、札幌市への金融機能の移転を進めた要因として挙げられる。道外の主要銀行は、戦中もしくは戦後、札幌市に進出し、小樽市の支店は1960年代までに概ね当市から撤退した(表1)。日本銀行や三井住友銀行も2002年に小樽市から撤退し、現在当市に支店を置く道外銀行は北陸銀行のみとなっている。なお、北海道拓殖銀行から営業譲渡を受けた北洋銀行の前身である北洋無尽も、1945(昭和20)年に小樽市にあった本社を札幌市へ移転させている。

戦後、北海道の金融機能を担ったのは、共に札幌市に本店を置く、北海道拓殖銀行と北海道銀行である。北海道拓殖銀行は大企業向け金融と道外融資が中心だったのに対し、北海道銀行はその設立経緯¹⁾から、中小企業金融を担うようになった。北海道は食糧増産と資源開発の点で期待され、全国や北海道の総合開発などの公共投資による開発資金が多く流入した。それに伴い多くの企業が札幌市に支社を置くようになると、上記二行を中心に金融機能も年々拡大し、1970年代には北海道全体の貸出に占める割合が5割を上回るようになっ



図3 札幌市都心部における金融機関店舗の分布(2006年)

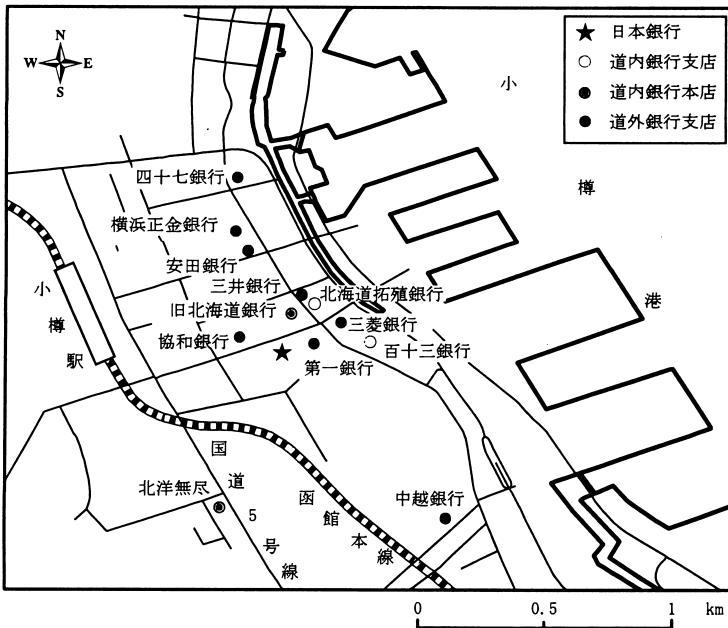


図4 昭和初期における小樽市の主な銀行店舗の分布
道路、鉄道は現在のもの。

表1 主な道外銀行の小樽拠点の設置年と撤退年・札幌拠点の設置年

銀行名	小樽拠点設立年	小樽拠点撤退年	札幌拠点設立年
日本銀行	1893（明治26）	2002（平成14）	1942（昭和17）
三井銀行	1880（明治13）	2002（平成14）	1948（昭和23）
富士銀行	1896（明治29）	1970（昭和45）	1928（昭和3）
北陸銀行	1899（明治32）	存続	1899（明治32）
第一銀行	1912（大正1）	1968（昭和43）	1913（大正2）
協和銀行	1914（大正3）	1962（昭和37）	1914（大正3）
三菱銀行	1926（大正15）	1969（昭和44）	1946（昭和21）
東京銀行	1936（昭和11）	1969（昭和44）	1946（昭和21）
住友銀行	1947（昭和22）	1961（昭和36）	1942（昭和17）
三和銀行	1947（昭和22）	1964（昭和39）	1947（昭和22）
日本勧業銀行	1950（昭和25）	1963（昭和38）	1946（昭和21）

銀行名は1954年当時のもの。

資料 『札幌市史 産業経済篇』、『小樽市史』、『小樽商工会議所百年史』をもとに作成。

た（図2）。1972年に札幌市で開催された冬季オリンピックも、開発資金の札幌集中に拍車をかけた。

以上のように、北海道経済は公共投資が重要な役割を果たすことで、高度経済成長期やその後の安定成長期に比較的順調に発展してきたが、1990年代に入って経済が停滞すると、公共投資は大きく削減された。道内銀行の融資先企業には公共投資に頼るものが多く、銀行は企業の経営悪化で多額の不良債権を抱えるようになった。北海道拓殖

銀行は、道内融資先企業の経営悪化に加え、バブル期に道外向けに大規模融資を行っていたことも重なり、1997年に経営破綻した²⁾。当行は道内の多くの大規模融資と中小企業金融の約2割を担っていたため、経営破綻によって札幌市における貸出額は大きく減少した（図1）。

近年、道州制や自治体への財源委譲など、将来的「地域の時代」へ向けた議論が活発に行われている。北海道は公共投資と共に発展してきた経緯

があり、将来の「地域の時代」のためには、経済的な自立と公共事業に代わる産業の育成が不可欠である。札幌市の金融機関には、資金の安定的供給と成長産業への効率的な資金配分によって、「地域」への貢献が求められている。

注

- 1) 1948年から1950年にかけての不況によって中小企業の資金難が著しくなったため、1951年に全道商工会議所の主導で北海道銀行が設立された。設立時には、道内の8商工会議所の会長が当行の取締役や監査役として銀行経営にかかわった（札幌商工会議所、1997）。
- 2) 北海道新聞社（1999）によれば、北海道拓殖銀行はバブル期に地価高騰を見越して道外不動産への積極的な融資を行ったが、都市銀行としては後発であったため、他の金融機関がすでに担保にしている物件を劣後順位で担保にすることや、土地評価額以上の融資を行うことによって融資案件を確保したことが、バブル崩壊後の不良債権の増大と経営破綻につながる大きな要因であったことを示している。

参考文献

- 小樽市（1958）：『小樽市史』小樽市。
- 小樽商工会議所（1996）：『小樽商工会議所百年史』小樽商工会議所。
- 札幌市史編集委員会編（1958）：『札幌市史 産業経済篇』
札幌市。
- 札幌商工会議所創立九十周年記念事業特別委員会編
(1997)：『札幌商工会議所九十年史』札幌商工会議所。
- 総務省統計局（2004）：『事業所企業統計調査報告』総務省
統計局。
- 北海道新聞社編（1999）：『拓銀はなぜ消滅したか』北海道
新聞社。